



## シンポジウム

### ● COVID-19 それぞれの視点からの教訓

COVID-19のパンデミックで外来小児科医は色々な苦勞をしました。他方、行政・施政者も多く苦勞をしてきたはずで、次世代のパンデミックに備えて、複眼的視点で我々は何を教訓として伝えられるか、考えていきましょう。

### ● 子どもと家族の関係性に着目した『こころの問題、愛着形成、発達障害等』への多角的な視点およびアプローチ

小児プライマリケアにおいて、子どもと家族の関係性に着目し、こころの問題や愛着形成をアセスメントすることは必要不可欠です。本企画では、発達障害や生活のしづらさへも焦点を当てて多角的な視点やアプローチ法を学びます。

### ● 新型コロナウイルス感染症と Vaccine Hesitancy

小児の新型コロナワクチン接種率が低迷しています。シンポジウムではこの問題を Vaccine Hesitancy としてとらえ、アカデミア、接種現場、医療現場などの立場から、原因と今後の対策、定期接種への影響などを考えていきたいと思えます。

### ● 小さく生まれた赤ちゃんのクリニックでの子育て支援

NICU 退院後の低出生体重児・ご家族がクリニックを診察・健診・予防接種のために受診することは珍しくありません。クリニックの医師・看護師が NICU や低出生体重児、フォローアップ外来について理解を深め、クリニックでどのような点に気をつけるべきか、フォローアップ外来とどのように連携できるのか、などクリニックでできる支援について考える場にしたいと思えます。

### ● 小児科外来の「その先」を考えてみませんか ～発達障害者の就労支援施設での経験をお聞きして～

発達障害を持った方達は、成長し小児科外来に来なくなった後、どのような困難と向き合っているのでしょうか。NPO 法人を運営し多くの当事者達と実際に接している方々の経験をお聞きし、小児科外来で終わりではない、長い「その先」の現状を皆さんと共有し、シンポジウム形式で考えたいと思えます。

## みんなで考えよう

### ● 授乳・離乳の支援ガイド再考 ～なぜ卵黄が先なの？～

現在の授乳・離乳の支援ガイドにある卵の与え方ですが、生後 5-6 ヶ月にまず卵黄を与え、その後に全卵を与えることになっています。このように決まった経緯はご存じでしょうか？また、その根拠はあるのでしょうか。本当にその必要があるのか、考えてみたいと思えます。

### ● 乳児のスキンケアはどこまで必要？

アトピー性皮膚炎や食物アレルギーの皮膚感作を予防するため、赤ちゃんへのスキンケア指導が一般的になってきました。しかし、このような介入によってどのくらいアレルギー疾患が予防できるのかはまだ明確ではありません。現在までに分かっている知見から考えてみたいと思えます。